

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	沖縄芸能活用プロモーション事業	実施計画 記載頁 54
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発進力の強化が課題である。	

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣し公演を実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	14回 海外公演				→		県
	組踊など厳選した沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を実施					→	
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄観光国際化ビッグバン事業(芸能活用プロモーション事業)	156,218	156,107	伝統芸能団体(組踊や琉舞)やエイサー団体、沖縄POPユニット等を、海外重点市場及び海外新規市場9カ国(地域)13都市に派遣し、海外公演を行った。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
海外公演回数			14回	53回
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	海外における沖縄の認知度等が低い状況の中で、海外向けプロモーションの展開と連携し、芸能公演を海外で実施する事で、文化・芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行った。 のべ13都市で53回の公演を実施し、5,000人以上の観客動員があった。また、観客アンケート調査・観光関連事業者等へインタビューを実施し、諸都市の一般観客の志向・ニーズなどの情報収集を行うことができた。 国際的に有名な、アビニヨン及びエジンバラの演劇祭に出場し計36回の公演を実施する等、当初計画より沖縄の魅力をより一層発信することが出来た。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業(芸能活用プロモーション事業)	116,415	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を53回実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

前年度実施した調査結果に基づき、派遣都市を直行便が就航している都市及び文化的関心が高い地域(ヨーロッパ)に絞り込み派遣したことで、より効果的なプロモーションが実施できた。  
 いくつかの都市においては、海外旅行博において特設ステージでのパフォーマンスを実施する等、海外向け観光プロモーションとの連携を図り、公演を実施することができた。  
 有料公演を実施することで、観客からのより厳しい目線で評価してもらうことで、モニタリング精度の向上が図れた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	ヨーロッパは組踊などの伝統的な公演が、中国や台湾、香港等は創作エイサーなどのアップテンポの公演が好まれることがH24年度の調査等で確認出来たため、H25年度は各地域の嗜好に併せた公演を行い、観客の反応も非常に良かった。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・旅行業関係者から「当該公演をツアーに組み込み送客したい」との話があるものの、定期的(ツアー組成時)に県内において公演が行われていないため、観光客送客に繋がらなかった。
- ・事業実施団体の選定期間が少し遅かったため、十分な準備期間を確保することができなかった。
- ・海外事務所やOCVB等の関係機関との十分な事業連携ができなかった。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・海外公演を実施した後に、県内公演を実施する等、直接的な観光客誘客に繋がるような公演実施時期の検討を行う必要がある。
- ・十分な事業準備期間が確保できるよう、派遣団体の選定期間・方法の検討を行う必要がある。
- ・海外事務所やOCVB等関係機関との情報交換を積極的に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・ツアー組成に要する期間を踏まえた上で、海外公演及び県内公演の実施時期を設定し、海外からの観光客誘客に繋げる。
- ・派遣団体の選定期間・方法等を検討し、前年度中に選定するなど、早期に選定することにより、十分な事業準備期間を確保し、より効果的なプロモーションを実施する。
- ・海外での観光プロモーション(旅行博出展等)との連携して公演を実施する等、海外事務所やOCVB等関係機関と連携して事業を実施し、より事業効果を高める。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	実施計画 記載頁	55	
主な取組	沖縄国際アジア音楽祭の開催支援			
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄国際アジア音楽祭については、沖縄の音楽を文化産業として発展させることを目的として、様々なライブステージイベント等を開催している。さらなる目的達成のため、沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを音楽祭と連携して開催する等し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	沖縄音楽産業の振興に資するシンポジウムの開催等による支援						県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄音楽産業シンポジウム開催事業	2,697	2,624	音楽イベント代表者による基調講演の開催、「音楽を地方から発信する」をテーマに音楽制作者等によるトークセッション及び離島ライブハウス等を巡るトークライブ・ツアーの開催	県単等
活動指標名			計画値	実績値
沖縄国際アジア音楽祭と連携した沖縄音楽産業の発展に資するシンポジウムの開催			1回	1回
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	沖縄の音楽産業の発展に関する音楽シンポジウムを開催し、音楽関係者による意見交換、議論等を行うことにより、県内音楽関係者のネットワーク強化、新たな展開に向けた協働促進等を図ることができた。 シンポジウムでは、地方発の音楽発信をテーマとして他府県における音楽イベントの事例等に関する講演を行い、沖縄国際アジア音楽祭の開催の参考となる内容とした。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄音楽産業シンポジウム開催事業	2,772	沖縄の音楽産業の課題、今後の方向性等に関するカンファレンスを沖縄国際アジア音楽祭と連携して開催し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

シンポジウムでは、地方発の音楽発信をテーマとして他府県における音楽イベントの事例等に関する講演を行い、沖縄国際アジア音楽祭の開催の参考となる内容とした。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
沖縄国際アジア音楽祭の来場者数	36,000人 (23年度)	21,000人 (25年)	45,000人	△15,000人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

**状況説明**  
 沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から平成23年度まで3か年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは県から民間へ運営が移管され、沖縄市を中心に規模を縮小して実施されている。そのため、来場者数は基準値(平成23年度)に比べ減少しており、新たな取り組みの実施やさらなる周知の強化等がなければ目標達成は困難であると予想されるため、同事務局との連携を図り、側面的な支援を行う等目標達成に努める。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・沖縄国際アジア音楽祭については、県から事業を引き継ぐ形で、平成24年度から民間(musix実行委員会:委員長・沖縄市観光協会会長、事務局・NPOコザまち社中)で事業を実施している。  
 ・平成24年度からは沖縄国際アジア音楽祭事業を民間移管し、規模を縮小して音楽祭の実施がなされ、来場者数も減少している状況である。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・今後、musix実行委員会において規模を広げた取組の開催及び収益事業の確保、観光誘客を図るため観光事業者等へ向けたより一層の広報活動の実施など、発展的な取組を強化していく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・沖縄の音楽を文化産業として発展させるという沖縄国際アジア音楽祭のさらなる目的達成に向け、県でも、開催事務に関しての側面支援や、音楽祭と連携した沖縄音楽産業の振興に資するシンポジウム等を開催することで支援を行っていく。また、実行委員会が今後、より発展的な取り組みに着手できるよう、文化・観光関連事業の情報提供を行う等、連携を図っていくとともに、来場者数増加に向けて、同音楽祭の周知を行っていく。

### 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション	実施計画記載頁 55
対応する主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。	

#### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣し公演を実施するとともに、国際旅行博でのチラシ配布や特設ステージでのパフォーマンス実施をする等、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			来訪した外国人観光客に向けた効果的なセールスプロモーションの実施			→	県
	海外の各種拠点を通じた発地特性を踏まえたセールスプロモーションの実施						
	海外の主要観光関連媒体への露出強化						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

#### 2 取組の状況(Do)

##### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄観光国際化ビッグバン事業(芸能活用プロモーション事業)	156,218	156,107	伝統芸能団体(組踊や琉舞)やエイサー団体、沖縄POPユニット等を、海外重点市場及び海外新規市場9カ国(地域)13都市に派遣し、海外公演を行った。 当該公演に、現地の観光事業者や旅行雑誌社等を招待しプロモーションを行うとともに、伝統芸能を活用した旅行商品造成等についてのヒアリング・意見交換を実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	海外における沖縄の認知度等が低い状況の中で、海外向けプロモーションの展開と連携し、芸能公演を海外で実施する事で、文化・芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行った。のべ13都市で53回の公演を実施し、5,000人以上の観客動員があった。また、観客アンケート調査・観光関連事業者等へインタビューを実施し、諸都市の一般観客の志向・ニーズなどの情報収集を行うことができた。 イギリス大使館WEBサイトのイベントページへの公演情報の掲載や海外演劇祭において、現地批評紙で4つ星を獲得するなどした。			

##### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業(芸能活用プロモーション事業)	116,415	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。 公演チラシの外国語版の作成を行うとともに、国際線機内誌への広告記事掲載等について検討する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

海外旅行博において特設ステージでのパフォーマンスを実施する等、海外向け観光プロモーションとの連携を図り公演を実施した他、現地の著名なブロガーによる公演PRも実施した。  
 派遣都市の取捨選択を行うとともに、前年度実施した調査結果に基づく各都市におけるニーズ等を踏まえて公演を実施することで、より効果的なプロモーションに繋がった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	ヨーロッパは組踊などの伝統的な公演が、中国や台湾、香港等は創作エイサーなどのアップテンポの公演が好まれることがH24年度の調査等で確認出来たため、H25年度は各地域の嗜好に併せた公演を行い、観客の反応も非常に良かった。				
	イギリス大使館WEBサイトのイベントページへの公演情報の掲載や海外演劇祭において、現地批評紙で4つ星を獲得するなどした。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境など)

- ・旅行業関係者から「当該公演をツアーに組み込み送客したい」との話があるものの、県内公演事業者との連携を図ることが出来ず、ツアー組成時に県内において公演が行われていないため、観光客送客に繋がらなかった。
- ・事業実施団体の選定期間が少し遅かったため、十分な準備期間を確保することができなかった。
- ・海外公演をより効果的に実施するため、海外旅行博をはじめとした県が実施する海外プロモーション事業との連携に留意する。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・海外公演を実施した後に、県内公演を実施する等、直接的な観光客誘客に繋がるような公演実施時期の検討を行う必要がある。
- ・十分な事業準備期間が確保できるよう、派遣団体の選定期間・方法の検討を行う必要がある。
- ・海外事務所やOCVB等、海外で事業を展開している関係機関との情報交換を積極的に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・ツアー組成に要する期間を踏まえた上で、海外公演及び県内公演の実施時期を設定し、海外からの観光客誘客に繋げる。
- ・派遣団体の選定期間・方法等を検討し、早期に選定することにより、十分な事業準備期間を確保し、より効果的なプロモーションを実施する。
- ・海外事務所やOCVB等関係機関と連携して事業を実施し、より事業効果を高める。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	沖縄伝統空手道継承・発展事業(仮称)	実施計画記載頁 55
対応する主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。	

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄を発祥の地とする沖縄伝統空手道を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外での沖縄伝統空手道の普及・啓発並びに世界中の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		沖縄伝統空手道の普及・拡大				→	県
		指導者・後継者の育成					
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄伝統空手道継承・発展事業	37,811	36,032	沖縄伝統空手道セミナー 2回 指導者海外派遣 8人 空手周知演武会の開催 1回	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの開催			2回	1回
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	平成25年度は、沖縄伝統空手・古武道国際セミナー(短期)を1回開催し、12の国と地域(日本含む)から55名の参加があった。 また、2カ国へ8名の空手指導者を派遣し、空手セミナーを開催するとともに、10月25日の空手の日には、首里城において周知演武会を開催した。 これにより、空手発祥の地・沖縄の世界への発信、沖縄伝統空手道の普及・拡大及び指導者・後継者の育成を図ることができた。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄伝統空手道継承・発展事業	45,861	沖縄伝統空手道セミナー 2回 指導者海外派遣 8人 空手周知演武会の開催 1回	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成25年度は事業初年度であったため、実施計画等の作成、発送リストの作成、受付システムの構築など、国際セミナーの実施準備に多くの時間を要し、十分な周知期間をとることができなかった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	調査予定	調査予定 (26年)	増加 (28年)	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

**状況説明**

沖縄伝統空手・古武道国際セミナー(短期)を1回開催し、12の国と地域(日本含む)から55名の参加があった。  
 2カ国へ8名の空手指導者を派遣してセミナーを実施し、約350名の参加があった。  
 10月25日の空手の日には、首里城において空手家約130名による演武会を行い、空手発祥の地・沖縄及び沖縄伝統空手の周知、普及を図った。  
 それ以外でも、毎年多くの空手家が空手を学びに沖縄を訪れていると言われていたが、その受け入れは各道場単位・個人単位の単位となっている。空手道会館(仮称)を拠点として「空手発祥の地・沖縄を世界に発信すること」ともに、国際大会等の開催や空手研修生の受け入体制の強化を図ることにより、世界中の空手愛好家の来訪を促進できると考えている。県外・海外からの空手関係者の現状について今年度調査を行い、それを踏まえ具体的なH28目標値を示すこととする。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・平成25年度は事業初年度であったため、実施計画等の作成、発送リストの作成、受付システムの構築など、国際セミナーの実施準備に多くの時間を要し、十分な周知期間をとることができなかった。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・国際セミナーの開催について、早期周知が求められる。  
 ・国際セミナーは9月に開催したが、より多くの参加者を得るため海外のバカンス時期(7月~8月)での開催も考慮する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・実施計画について早期に決定し、十分な周知期間を取って、国際セミナーを開催する。  
 ・国際セミナーについて、海外のバカンス期(7月~8月)に開催する。



## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成			
主な取組	「空手道会館(仮称)」の整備	<table border="1" style="float: right; margin-left: 10px;"> <tr> <td style="width: 100px;">実施計画 記載頁</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">55</td> </tr> </table>	実施計画 記載頁	55
実施計画 記載頁	55			
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、空手道会館(仮称)を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
		建設工事等		供用開始		→	
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
空手道会館(仮称)基本計画等策定事業	2,252,960	38,387	空手道会館に係る用地取得にかかる不動産鑑定および、現存する建築物等の物件補償調査などを行った。加えて当該会館の管理運営に係る調査についても実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	空手道会館(仮称)建設にあたり用地取得などの課題に対して、地元の豊見城市とも連携を図りながら、用地取得に向けた不動産鑑定および、現存する建築物等の物件補償調査などを行った。加えて当該会館の管理運営に係る調査についても実施したが、空手道会館(仮称)建設予定地の用地取得が難航したためやや遅れとなった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
空手道会館(仮称)建設事業	1,408,000 (2,198,157)	空手道会館建設予定地の用地購入、建設工事の着工 公共施設の運営権導入の検討、展示品調査収集検討 指定管理者管理条例の制定等	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

空手道会館建設にあたり用地取得などにかかる課題について、地元の豊見城市とも連携しながら、諸問題の解決に取り組んできたところである。  
同会館の運営にあたり、管理運営体制及び収支計画等の検討も行ったところである。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	調査予定	—	増加	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成26年度中に用地取得、工事の着工を行い、平成28年度4月に供用開始を目指している。供用開始により、空手道会館(仮称)を拠点として「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信するとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図ることにより、世界中の空手愛好家の来訪を促進できると考えている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・平成25年度中に空手道会館管理運営及び展示計画策定の調査委託を実施や、用地購入にかかる不動産鑑定、物件補償など行った。
- ・建設用地の買収を行うにあたり、取得予定地の一部が8名の共有地となっており、一部の名義人に相続が発生したことなどの不測の事態により用地購入、物件補償は次年度へ繰越となった。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・平成27年度末の供用開始までタイトなスケジュールのため、随時、進捗を確認し、会館完成までのスケジュール管理を密に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・平成26年は前年度からの繰越予算で用地購入、物件補償契約を9月までに完了させ、空手道会館建設の11月工事着工を目指す。それと平行して、空手道会館の展示設計を12月までに完了させ、空手道会館の管理運営、展示品調査収集業務についても推進し、利用者に良好なサービスが提供できるよう取り組んでいく。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化			
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成			
主な取組	文化発信交流拠点の整備	実施計画 記載頁	55	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発進力の強化が課題である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
						→	県
	構想策定	文化発信交流拠点の整備					
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	16,138	15,907	平成24年度に取りまとめられた拠点整備基本構想の内容を踏まえ、施設規模や施設配置箇所、管理運営の基本的な考え方等に関する検討を行い、拠点整備基本計画を策定した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	施設規模や施設配置箇所の絞り込み、管理運営等を取りまとめた拠点整備基本計画を策定した。 当初は、施設配置箇所は平成25年度で決定する予定となっていたが、国立劇場おきなわの南に隣接する組踊公演内と同劇場東側にある浦添市産業支援センター(結の街)の北側にある都市公園緑地内の2カ所への絞り込みとなった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	12,067	平成25年度に策定した基本計画の内容を踏まえ、実施事業や具体的な管理運営に関する検討を行う。 施設整備に関する関係機関との調整をすすめ、施設配置箇所を決定する。	一括交付金 (ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

施設整備箇所の検討については、これまで浦添市の窓口となる商工関連部署との調整を行っていたが、土木・企画部署とも施設整備に関する意見交換を行うことで、施設整備に関する課題やスケジュール等の情報共有を図ると共に、浦添市役所全所的な取り組みへと繋げることが出来た。  
 国立劇場おきなわとの意見交換を行う中で、施設整備に関しては、国立劇場おきなわとの劇場席数と競合しない施設整備の要望等が上げられた。  
 駐車場整備に関する那覇港管理組合と調整では、施設整備箇所決定後に改めて具体的な駐車場整備の検討を進めることになり、施設整備の概要やスケジュール等の情報提供に留まった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

<b>状況説明</b>	沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、文化・芸能の受発信機能、新たな芸能の創造機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を国立劇場おきなわを中心とするエリアに整備を行う基本構想を平成24年度に取りまとめた。 平成25年度は、本基本構想の内容を踏まえ、施設規模や施設配置箇所、管理運営の基本的な考え方等に関する検討を行い、拠点整備基本計画を策定した。
-------------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・拠点整備予定地の土地利用について、関係団体(国立劇場おきなわ、那覇港管理組合、浦添市等)との調整が必要である。
- ・劇場席数など、施設整備に関する芸能関係者からの意見がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・国立劇場おきなわ、浦添市、那覇港管理組合等の関係団体と連携を密に図る必要がある。
- ・施設規模や機能等について、芸能関係者との意見交換をする必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・国立劇場おきなわ、浦添市、那覇港管理組合等の関係団体と連携を密に図り、早期の供用開始を目指す。
- ・施設規模や機能等について、芸能関係者との意見交換を行い、施設整備概要の共有を図る。